

みどりの杜俳句会

木下閣抜け出て風のふと匂ふ

佐山けさ子

下閣を風の抜け来る真昼かな

高橋 きみ

茄子の花紺濃く我れに返る朝

安田 久子

雨上り木の間を通る風涼し

西 ツル

青紫蘇や一夜の雨に甦る

荒川句似啓

ベランダの枝に巢立ちの燕群れ

鈴木 啓子

退院を指折り待ちて梅雨晴間

吉田 愛子

じゃが芋掘り株につく土払ひつつ

河西カナメ

胡麻と紫蘇葉味に手打うどんかな

田村 好子

雨の棚田越の早苗を補植かな

馬場 芳

庭先の黄ばら気ままに向き向きよ

飯野 トヨ

大玉のあぢさる道辺に並び咲く

梅沢さくえ

赤しやくやく茎ごと揺れて風強し

飯野はつ志

午後三時確かに三時草ひらく

高橋 ツネ

前庭の南天白く風に散る

山崎 才子

夕涼や網戸をつたふ猫の声

関口 真吾

散水の赤紫蘇霽輝やけり

小宮 勉

山法師枝に隙なく白さ増す

関口 侑子

小松菜の根元青虫隠れけり

野口利江子

梅雨寒し棚に長袖さがしけり

大竹 祐也

遠来の友と仰げり天の川

岩崎 真人

雨上がり葉陰螢の光待つ

谷内 真里

蛙草に紛ぎれず藪菅草朱し

初雁 功子

ラベンダー川風にのり香りくる

土屋 厚子

仙人掌道へ這ひ出て雨催ひ

山田 美子

白石短歌会

父母に彼を紹介する夢を

見て驚きぬ夢の不思議さ

渡邊美枝子

前山の栗の巨木は花盛り

季節はずれの雪被る如

坂本 美江

霧晴れて一步踏み出す杖の先

活きく伸びし柔き草抜く

白石 礼子

清らかな水と空気を育成の

母なる山に感謝の米寿

渡邊阿里子



人権シリーズ

『思いやりの心を』

358

このところ児童虐待（それも死に至るほどの行為）のニュースが後を絶たない。大変痛ましいことです。虐待を受けている子どもに罪はない、なぜ自分がこのような扱いを受けるのかもわからないまま虐待されているのです。このような行為をしている親（実の親ではない場合もあるが）はどのような教育を受けていたのでしょうか。学校では、それぞれの学年に応じた人権教育に取り組んでいるようであるが、家庭でもいじめや差別について話し合うことが大切だと思えます。

常に相手の立場に立って、こうすれば相手が傷つくのではないか、そうならないためにはどうしたらよいかを考えて行動すれば、誰も傷つけることなく、仲良くなれるのではないかと思います。

海外のニュースを見ても、人種差別がもとで戦争にまで発展してしまうケースもある。もつと互いを認め合い、尊重しあうことで未然に防げることもあるのではないのでしょうか。

つい先日、知人と話したことがあります。それは障がい者優先マークのある駐車場に、平気で車を駐車している健常者が本場に多いということです。体の不自由な人のための駐車場であることは十分わかっているはずですが、自分さえよければと考えているのだと思います。そのために体の不自由な人が停められずに困っているのです。もし自分がそういう立場になった時のことを考え、それぞれが自分本位でなく、思いやりの気持ちをもって行動することが大切なのではないかと思えます。

東秩父村社会教育委員 馬場 章